

徳を成就せり。若功德成就すれば佛の種子をむねの中に收て必ず出離の人と成也。此經の諸經に超過する事は誹謗すら尙逆縁と説、不輕輕毀の衆是也。何況や致信心、順縁の人をや。故に傳教大師云、信謗彼此決定成佛等云云。問云、成佛之時、三身者其義如何。答、我身の三千圓融せるは法身也。此理を知極めたる智慧の身と成を報身と云也。此理を究竟して、八萬四千の相好より虎狼野干の身に至るまで之を現じて、衆生を利益するを應身と云也。此三身を法華經に説て云、如是相如是性如是體と云云。相は應身、性は報身、體は法身也。此三身は自無始已來我等に具足して闕減なし。雖然迷の雲に隠されて是を不見。悟の佛と云は此理を知る法華經の行者也。此三身は昔は迷て不覺不知、佛の説法に叩かれて近く覺りたりと説をば迹門と云也。此三身の理をば我等具足して一分も不迷、三世常住にして無所不遍と説をば本門と云也。若爾ば本迹は只久近の異にして其法體全く不異。是を以て天台釋云、本迹雖殊不思議一云云。悟者只此理體を知るを悟と云也。譬ば庫藏の戸を開て寶財を得が如し。外より不來。一心の迷の雲晴ぬれば三世常住の三身三諦の法體也。鏡に塵積ぬれば形不現。明なれば萬像を浮るが如し。塵の去事は人の磨くによる。像の浮ぶ事は磨に

非ずばならし。若爾ば轉迷覺悟は行者の所作による。三千三諦三身の理體は全非_ニ人所作_ニ。只是本有也。又迷を修行する事は人の作なりといへども、但迷の去處を見ざるなり。百年の闇室に火をとますが如し。全く闇の去ところを見ず。是轉迷覺悟返流盡源也。無明即明は唯名迷悟、無明法性は全く其體一也。穴賢穴賢。各別には得心べからず。若迷悟異體と得心ならば成佛の道遼遠ならん事、一須彌より一須彌に至べが如し。自本不二なる理體に迷が故に衆生と云、是を悟るを佛と云也。よくよく此大旨を心得て不可有失錯也。我等が生死一大事也。出離の素懷也。豈入寶山手を空くせんや。後悔千萬すとも敢て無益。閻魔の責獄卒の杖は全く不撰人只罪人を打。若人間に生れて其難處を不去百千萬劫を経歷すとも不聞佛法名字。三界に昇沈して六道流浪の身となるべし。出離の要法を不聞事可悲可悲。可恐可恐獄卒阿防羅刹の責を蒙ん事を。

日 蓮花押

①〔又〕一節 ②の十(作)節 ③年=季節 ④〔也〕一節 ⑤(生れて)一節 ⑥去十(者)節 ⑦十(惣在一念法門)節 ⑧(撰之)十花節